

(要約版)

18世紀イギリスにおけるタバコ商と香水商の社会経済史分析

助成研究者 岡部芳彦 ((神戸学院大学) 経済史)

1. 研究目的

本研究の目的は、イギリスの各地に残る検認遺産目録を使用して、18世紀のイギリスにおけるタバコ商 *tobacconist* と香水商 *perfumer* の実像を検討し、社会経済史的背景を分析することである。

海港都市ブリストルは、国際商業網の発展を背景に 17 世紀にはロンドンに次ぐイングランド第 2 の貿易港として栄えた。大西洋の三角貿易の拠点であったブリストルには、西インド諸島からの産品を取り扱う業者が多数見られる。その中でも巨額の検認遺産目録を残した職業の一つがタバコニストすなわちタバコ商である。しかし、その仕事内容や実際の生活を扱った先行研究はまったく見られない。

イギリス国立公文書館 (The National Archives、以下 TNA) に所蔵されるカンタベリー大権裁判所 (Prerogative Court of Canterbury、以下 PCC) の検認記録の中の遺産目録を用いて分析すれば、タバコ商の実態解明ができると思われる。

2. 研究方法

主に TNA において、史料調査を行った。くわえてブリストル市公文書館 (Bristol Record Office、以下 BRO) にて補足の史料調査・確認作業を行った。TNA では、研究協力者のジョン・ムーアが作成した索引を参考に 457 例の検認遺産目録の手稿の文書を確認した。PROB 31 と番号付された史料は箱にはいった状態で未整理であったため、一つ一つ注意して史料を検討し、確認できたものをデジタルカメラで撮影した。それらをもとに活字化を行った。

3. 研究計画と実施状況

本助成に応募した時点で、TNA の索引から、PCC の検認記録にブリストル地域の 6 例のタバコニストの遺産目録が確認されていた。TNA 現地での史料調査において、この 6 例すべてのタバコ商の遺産目録を発見できた。それらのうち、判読が可能な 3 例の全文を活字化できた。本助成による研究成果の一部は、この最終報告書に先行して、2014 年 8 月末発行の『たばこ史研究』で公開した。

一方、香水商に関しては、本助成の研究計画に研究協力者として記載していたジョン・ムーア氏に分担し、調査を依頼していたが 2014 年晩夏に急逝し、十分な調査・

把握ができなかった。この点については、本年採択された科研費で引き続き研究を継続したい。

4. 研究成果

PCC 検認記録の中から主な研究対象地域としてきたブリストルのタバコ業者の検認遺産目録の手稿から 3 例を活字化し、ケーススタディを行った。それにより、ブリストルの植民地貿易の主要な産品であるタバコを扱う業者の実態の解明を試みた。これまで不明確であった 18 世紀イギリスのタバコ業者は、何を販売し、いかなる業態であったのかをそれらのケーススタディを通じて分析した。

今回活字化しケーススタディを行った検認遺産目録は、1721 年、1731 年、1799 年と 18 世紀前半から後半にかけての事例を含んでいる。そのため、タバコ商の業態や役割の変化を窺うことができる。John Fry が兼業タバコ業者であったのに対して、John Leison の主たる業態は大規模なタバコ関連品の卸売問屋であった。また、Abraham Wigginton はタバコそのものは扱わず、タバコ業を営む同業者への出資や投資を行う大商人であった。今回の事例を見るかぎりでは、タバコ商の役割が 18 世紀を通じて変化したように考えられる。